

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミ II	チーム名	TEAM EIGHT
タイトル	岐路に立つ日本の”ものづくり産業”		
テーマ群	d) 国際経済		
メンバー	由元佑樹、西田真一、西堀賢一、金川尚平、吉田直記、森 直道、山崎優也、石井芹菜		
研究計画内容	<p>皆さんは、いま、日本のものづくり産業が危機に直面していることをご存知でしょうか？その代表的事例がシャープやパナソニックであり、韓国や台湾、中国などの近隣諸国企業との競争によって日本のお家芸である一部のものづくり産業が急速にその足元を揺さぶられています。私たちは、昨年からバンドー化学、シスメックスといった有名企業だけでなく、神戸レザークロスや特殊梯子製作所などの地元の中堅・中小企業を訪問することを通じて、こうした日本企業が直面するグローバル化の波を直接肌で感じることができました。そして、そこで得られた問題意識は「日本企業の私的利益と日本全体としての社会的利益の間にギャップが起こりつつある」ということです。</p> <p>その代表的事例が、日本経済の四番バッターである自動車産業です。実際、日本を代表するトヨタの豊田章男社長は「この超円高下では理屈で言えば日本でものづくりを続けることはあり得ない」と述べられ、「もうかればいいという考えで 100 万台の国内生産を海外に移管したら一瞬にして 20 万人の雇用が失われる」と、企業の私的利益と社会的利益の相反を強調されています。</p> <p>このような問題意識から、私たちは自動車産業を具体的事例として、日本のものづくり産業の現状と未来について考えてみたいと思います。まず、その置かれた立ち位置を歴史的、国際的視点から考察します。続いて、ドイツのワーゲンや韓国の現代の急速な台頭の背景なども交えて、日本の自動車産業が直面する課題を明らかにします。そして最後に、今後の日本の自動車産業の展開方向を、“エコ”、“新興国”の二つのキーワードを軸に考察します。これをきっかけに、日本経済の現状を知り、今後の私たちの生活を見直す契機にできればと考えています。</p>		